ふしぎなフーセンガム

人は多面体

3年　C・Hさん

ぼくは最初に「ふしぎなフーセンガム」を読んで、じゅん君の気持ちが全く分からないと思いました。なぜならぼくはサッカーが好きだし、男は男らしくしているほうがかっこいいと思っているからです。でも、この本を読んでいて、ぼくは人の一部分だけを見て、その人のことを決めつけているのではないかと思うことがありました。

ぼくには親友のえいたがいます。えいたは声が大きくて、誰とでも仲良くできて、勉強よりも給食や体育が好きです。えいたがいる日は、二十分休みが五分くらいに感じるほど楽しいです。えいたはお父さんとお母さんが中国人で、家では中国語を話しているそうです。日本語も中国語も話せるえいたを見て、ぼくは何でもできるかっこいい男だと思っていました。

ところがある日、なまずを使った郷土料理を見る授業がありました。なまず料理屋さんがみんなの前で生きたなまずをさばいて竜田揚げを作ってくれました。ぼくはなまずのさばき方を見て勉強になるなと思いましたが、誰かがなまずがかわいそうだと泣いていました。女の子かと思ったら、あの男らしいと思っていたえいたでした。

そのとき、ぼくはえいたの一部分しか見ていないことに気づきました。実はぼくもピアノが好きです。でもそれを友達には言っていません。なぜならピアノ教室はほとんどが女の子なので、あまり男らしくないと思い恥ずかしかったからです。でもぼくはえいたが泣くところを見て男らしくないと思いませんでした。むしろえいたは優しいなと思って、もっと好きになりました。もしかしたらぼくも「ピアノが好き」と言えば、もっと仲良くなれる人もいるんじゃないかと思いました。今までじゅん君の気持ちが分からないと思っていたけれど、実はぼくにもじゅん君に似た部分があると思いました。

人は外から見えている一部分だけではなく、いろいろな部分がある多面体なのだと思いました。これからはその人の見えている一部分だけではなく、いろいろな面を見てその人を知っていきたいと思いました。